

山雲水月

発行責任者 龍源寺 住職 渡辺龍道

平成15年住職年頭挨拶



平成15年 龍源寺年間行事予定

- 1/1 年頭祈禱
- 1/3~1/4 年始挨拶
- ※2/3 節分会
- ※2/15 涅槃会
- 3/18~3/24 春彼岸
- 3/23 蚕影山大祭
- ※4/8 花祭り
- 4月末 大施食会法要
- 7/12~7/16 県外檀信徒棚経
- ※7/23~7/24 子供禪の集い
- 8/13~8/16 お盆
- 9/20~9/26 秋彼岸
- ※12/8 成道会
- ※12/31 除夜祭
- ※毎週土・日曜日 書道教室
- ※毎週水曜日 定期坐禅会
- ※隔週水曜日 梅花講稽古・華道教室
- ※は本寺仁叟寺にて開催

謹賀新年

「下手は上手の手本なり」
せあみ ふうしかでん
 世阿弥『風姿花伝』より
 最初から全てが分かっていて
 熟練した人はいない。まして
しゅぎょう
 や、修業に上手とか下手とか
 ない。皆、仏様の子だからどん
 な人でも平等で同じです。他人
 の欠点を見ることは、自分の欠
 点を知ることでもあり、他人の
 良い所を見ることは、自分の勉
 強となることである。
まんしん これ
 慢心することなく、日々是
しょうじん
 精進。一步ずつ、ゆっくり

主な目次:

新年挨拶	1
年回表一覧	1
論文発表	2
龍源寺探索-3	2
施食会について	3
節分会について	4
行雲流水(編集後記)	4

しっかりと、前を見て、横を見
 て、後ろを見て、皆で共に歩む
 ことが大切でありましょう。

檀家・信者の皆様方の身体の
 健康と心の平安。そして、家内
 の幸福に龍源寺御本尊様の限り
じひ かこ
 なきご慈悲とご加護があります
きねん
 よう、祈念しております。

平成15年年回法要一覧表

一周忌	平成十四年	二十三回忌	昭和五十六年
三回忌	平成十三年	二十七回忌	昭和五十二年
七回忌	平成九年	三十三回忌	昭和四十六年
十三回忌	平成二年	五十回忌	昭和二十九年
十七回忌	昭和六十二年	百回忌	明治三十七年

※1 以上、各ご家庭に於いてご確認ください。

※2 該当檀信徒各家にはハガキにて通知が届きます。

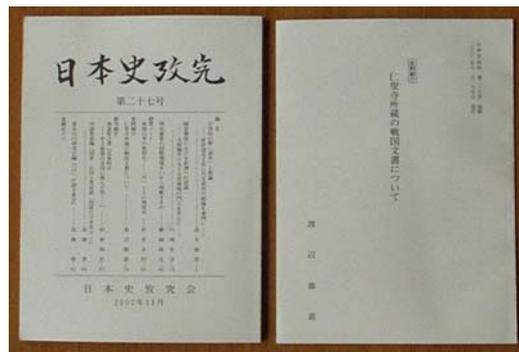
住職、論文発表

去る11月30日（土）に、日本史攷究会にほんしこうきゅうかいの学会が早稲田大学教育学部にて行われました。

その際ふしよ、不肖ながら私の論文が同会誌に掲載されました。

題は『仁叟寺の戦国古文書』。仁叟寺に現存する古文書（吉井町史跡指定）を初めて学会に紹介させていただきました。また、この論文を書くに当たり、藤木久志立教大名誉教授ほかそのとよちか、恩師である外園豊基早稲田大教授、黒田

→左・日本史攷究会会誌
右・住職論文冊子
『仁叟寺の戦国古文書』



基樹駒澤大講師各位には大変お世話になりました。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

なお、同論文は冊子仕様に印刷をいたしましたはんぷ。希望者には在庫がある限り頒布いたします。当寺までご連絡をください。



いふうどうどう しやかむにぶつざそう
威風堂々たる様相の釈迦牟尼仏坐像

仁叟寺通信 - 4 -

藤岡市白石の和島石材(有)の社長和島孝之氏しろみかげいしせいが、亡き両親の菩提供養のためにと、仁叟寺に

白御影石製の釈迦牟尼佛坐像一体を寄進建立いたしました。台座を含め高さ約3mの同大仏は、仁叟寺新墓地入口、西門そばに堂々と安置されております。お墓参りなどそばを通過する際には手をかいげんしき

合わせお参りください。また、この仏像の開眼式だいはんにやえは今年の仁叟寺大般若会法要に併せて行う予定です。是非、同法要にも檀信徒の皆様はご参集ください。

龍源寺探索-3-

今回の探索は、魚藍観世音菩薩立像ぎょらんかんせおんぼさつりつぞうを取り上げます。龍源寺の境内の池の淵ふち、たいこ橋を渡り階段を登ったところに安置してだいはんけいじいる同観音様。昭和55年、29世大願啓司代に完成いたしました。

この魚藍観音はだいすだいひ大慈大悲の観音菩薩が衆人の苦悩を癒すため三十三の姿に身を変える、三十三観音の一つといわれております。その姿は、大魚に乗る像と籠かごに入れた魚を掲げる像の二型式があり、当寺の魚藍

観音像は後者の例で観音様がたたず筆を持ち池の淵に佇んでおります。

像高は、台座共で約2m。青銅製で優しい表情の観音様です。

群馬県は海無し県ですが、魚介類を扱う店や商売は少なくありません。そのため、同観音様にお参りに来る関係者の方も多々あり



池の淵にひっそりと佇む魚藍観音様

こかげさんだいごんげん

蚕影山大権現ご移転

毎年3月23日に行われる当寺恒例行事『蚕影山大祭』が今年より変更になり、蚕影山本尊様を本堂にご移転いたします。

蚕影山本尊様は桑の葉を手に抱いている珍しい仏様で『蚕影山大権現勢至菩薩』と言います。古くから養蚕の繁栄にご利益があると云われ、以前は蚕影山講が組織され、縁日には屋台が多く立ち、大変賑やかであったと伝えられています。江戸期よりの当寺恒例の行事でありましたが、養蚕農家の減少と共に衰退し、最近では多胡地区（特に松田地域）の住民により細々と行事が執り行われておりました。

今回はそういった事情を踏まえ、また仏殿

の老朽化に伴い、毎年春に行われる当寺大施食会法要に併せてご移転を行います。

下記の記事と重複いたしますが、講談師講演もその法要に併せて行います。檀信徒の皆様のご参加を宜しく願います。

以前は龍源寺の象徴的存在であった同大祭ですので、廃止することは考えてなく、これからは、大施食会法要の際に行っていく予定です。

→龍源寺別当所

蚕影山仏殿



しんうち

あり、講談師（真打）の桜井茂夫師（芸名、小金井若洲師匠）の講演を行います。同師匠は東京都出身で現在は講談師だけでなく、テレビのナレーターなども勤めております。

講談というとならない方が多いかも知れ

春の施食会法要に講談師を招聘予定

上の記事と重複いたしますが、毎年春に行われる当寺恒例の行事、大施食会法要の際に、住職の学生時代からの友人で

ません。7世紀の中国の唐時代の文献に「講とは談説なり」とあり、これに基づいて「講談」という語ができました。一般民衆を対象とした、仏教僧侶の娯楽的講釈を呼ぶ言葉だったそうです。つまり、仏の教えを分かり易く庶民に説いたその説話が「講談」だったそうです。日本では落語などがそれに当たり発展していきま

した。また、講談は明治以降に社会風刺を兼ね盛んになりました。

今回はその起源に基づきお寺での開催です。

演題は『忠臣蔵』を予定しております。料金はもちろん無料。檀信徒のみならず沢山の皆様のご来場を歓迎いたします。

龍源寺HPが完成

本寺・仁叟寺のHP (<http://www7.wind.ne.jp/jinsouji/>) は既に報告いたしました。今回、当寺におきましてもHPの立ち上げをいたしました。

1枚だけのシンプルなHPですが、リンク先に仁叟寺が登録しており、また龍源寺宛てのE-MAILも簡単に送信することができます。写真および地図も掲載してあります。是非、一度ご覧になってください。

(※龍源寺HP⇒ <http://www.citydo.com/prf/gunma/guide/rg/>

[rg.cgidb=rg&uid=default&view_records=1&id=gm000562](http://www.citydo.com/prf/gunma/guide/rg/rg.cgidb=rg&uid=default&view_records=1&id=gm000562))

せつぶんえ

節分会について

まめま

豆撒きでは年男あるいは一家の主人が「福は内、鬼は外」といいながら煎った大豆をまき、みんな自分の年の数だけ豆を食べるとこれから一年病気になるいと言われている。また妊婦のいる家庭ではこの豆を安産のお守りにもします。もともと宮中の行事が一般家庭に普及したものとされますが、最近は大きな神社仏閣などで芸能人やスポーツ選手などを招いて豆撒き大会をやっているケースも多いようです。



仁叟寺節分会の様子

さて、この大豆ですが、硬いんですね。硬いものというのは「木火土金水」の五行では「金」に属します。この大豆は最初煎ることによって火気にあてられ「火こく剋金」の原理で剋された上に、「鬼は外」といって外にまかれて捨てられたり、「福は内」といってまかれてから人々に食べられたりして、要するに豆はみんな「やっつけられてしまいます」。

古来疫病や災厄というのも金気に属するものと考えられていました。ですから豆というのは実は鬼をやっつける道具でありながら実は鬼そのものでもあるわけ

で、豆まきというのは邪気を祓うとともに、「金」の気を剋することで「金剋木」で金気に剋されるはずの「木」の気、つまり春の気を助ける行事、つまり春を呼ぶ行事でもあるのです。

豆撒きの豆について、重要なことのひとつは煎り豆を使うということです。万一、生豆を使って、拾い忘れたものから芽が出るとよくないことがある、と言われています。

また近年、「下に落ちた豆を食べるなんて汚い」といって、大豆ではなくピーナッツを使う人たちが増えています。この風習は新潟地方から広まったようです。

とにかく、福を招き春を呼ぶ、そして邪気を払うこの伝統ある節分会の行事に参加してみてもは如何でしょうか？



行雲流水（編集後記）

編集人 住職 渡辺龍道

明けましておめでとうございます。

去年は住職就任式（晋山結制式）をはじめ、私にとっては色々な転機となる年でした。まだ、住職になって半年余りですので、不勉強なところが多々ありますが、『日々是精進』の精神で自分にハッパを掛けていこうと思っております。

現在は北朝鮮拉致問題や出口の見えない不景気、失業者の増加など、暗いご時世です。その中で、お寺の可能性、何かできるのか？といったことを考え、それを今年の抱負といたします。ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願ひいたします。

本年もまた、宜しくお願ひ申し上げます。

→ 鈴生りの柚子の樹
（二十八世大澄隆司老師植樹）

